



発行：富士宮市教育委員会文化課
〒418-8601 静岡県富士宮市弓沢町150番地
TEL：0544-22-1187 FAX：0544-22-1209
E-mail：e-bunka@city.fujinomiya.lg.jp

発行日：令和5年3月31日
イラスト・まんが：文化課



—戦国時代の
富士宮探訪—
富士宮って？
どうなるの？

戦国時代の富士宮市

まえがき

2023（令和5）年1月8日からNHK大河ドラマ「どうする家康」が放送を開始しました。主人公は徳川家康です。

家康は1542（天文11）年、三河国（愛知県東部）岡崎で生まれますが、幼少期を織田氏の人質として尾張国（愛知県西部）で、少年～青年期を今川氏に従う一族の当主として駿府（静岡市）で過ごします。しかし1560（永禄3）年の「桶狭間の戦い」で今川義元が討死すると、その後今川氏から離反し、戦国大名として世に躍り出ます。

家康と富士宮市が直接関わるのは1582（天正10）年からになりますが、本冊子ではそこに至るまでの富士宮市についても取り上げます。

戦国時代以前の富士宮市とその重要性

1338（暦応元）年、京都に成立した室町幕府は、鎌倉幕府の本拠地とその地盤だった関東10ヶ国（地匁）を掌握するため、「鎌倉府」という機関とその長「鎌倉公方」を設置します。将軍と鎌倉公方は同じ足利一族ですが、室町時代には両者は対立を深めていきます。

このような政治状況の中で、鎌倉府の管轄国に接する駿河国（静岡県中東部）、特に富士宮市を含む東部地域が重要な場だったことは想像できるでしょう。しかしこの地域に住む武士たちは、駿河国を治める守護・今川氏ではなく、個別に幕府や鎌倉府に仕えていました。そのため、東部地域は情勢によって幕府・鎌倉府のどちらにも味方する状況にあり、どちらが掌握するか重要な課題となっていました。

室町時代の
富士宮市周辺



今川氏と富士宮市

1537～45（天文6～14）年にかけて、「河東」（＝富士川以東の地域）をめぐり、駿河今川・甲斐武田氏（山梨県）と相模北条氏（神奈川県）との間で「河東一乱」が起こります。一乱の中、富士宮市に住む武士たちは今川方と北条方に分かれて激しくぶつかりました。

桶狭間の戦いの後、武田信玄は駿河国へ進軍を開始、義元の跡を継いだ氏真は敗北してしまいました。さらに武田氏は駿府へ進軍し、その途中にある「大宮城」（大宮小付近）では、今川方の武士たちが立てこもり、武田氏に抵抗をしました。（▶p,5-10・13-14）

武田氏と富士宮市

大宮城での戦いが終わると、武田氏は本格的に駿河国、そして現富士宮市に進出します。武田氏は甲斐国と駿河国を結ぶ交通路を整備したり、大宮城や浅間大社の造営をしたり、浅間大社の周辺や上井出に新しい市や宿場を開いたりしました。また農業振興も進めています。

しかし1582年3月、信玄の跡を継いだ勝頼は、織田信長・家康らとの戦いに負け、武田氏は滅びてしまいます。その後駿河国を支配したのは、41歳になった家康でした。（▶p,11-14）

徳川氏と富士宮市

1582年10月、家康は三河（愛知県東部）・遠江（静岡県西部）・駿河・甲斐・信濃（長野県）の五ヶ国を領地とする有力大名となります。家康は家臣・井出正次を通じて北山用水の開削や、武田氏の攻撃を受けた上井出宿の復興、交通路の整備を進めました。

家康は1590（天正18）年、豊臣秀吉の命令で駿河国から関東へ移り、富士宮市との関わりはしばらくなくなります。しかし1600（慶長5）年、関ヶ原の戦いで家康が豊臣方に勝利し、朝廷から征夷大將軍に任命されて幕府を開くと、現在の2階建ての本殿を含む浅間大社の建物を造営しました。（▶p,15-20）



目次・参考文献



目次

戦国時代の富士宮市	p.1
まえがき／戦国時代以前の富士宮市とその重要性／今川氏と富士宮市／武田氏と富士宮市／徳川氏と富士宮市	
目次	p.3
戦国時代の富士宮市 関連MAP	p.4
今川氏と富士宮市	p.5~10
「河東一乱」～今川・武田氏vs北条氏／「河東一乱」の中の富士宮市	p.5
「河東一乱」の終結と「河東」／富士山登拝と義元・氏真	p.7
武田信玄の駿河国侵攻／大宮城の戦い／コラム：富士氏	p.9
武田氏と富士宮市	p.11
武田氏の富士郡支配／信玄と浅間大社／勝頼と浅間大社	
特集：大宮城（富士城）	p.13
大宮城ってどんな城？／発掘調査で見つかったもの／発掘調査から分かる変遷	
徳川氏と富士宮市	p.15~20
武田・徳川両氏の攻防と富士宮市／甲州征伐と富士宮市／信長の富士遊覧／コラム：人穴と徳川家康	p.15
天正壬午の乱と富士宮市／家康の五ヶ国支配と富士宮市	p.17
駿河国へ帰ってきた家康／「天下人」家康と富士宮市／家康の浅間大社の造営／コラム：富士山はだれのもの？～家康と富士山～	p.19
関連年表	p.21

参考文献

『史蹟人穴』（富士宮市教育員会、1998）／『富士宮市史』上巻（富士宮市、1971）／『静岡県史 通史編2 中世』（静岡県、1997）／『六所家総合調査報告書 古文書①』（富士市教育委員会、2014）／『元富士大宮司館跡』（富士宮市文化財調査報告書第24集、2000）／『元富士大宮司館跡Ⅱ』（富士宮市文化財調査報告書第48集、2014）／『村山浅間神社調査報告書』（富士宮市教育委員会、2005）／大石泰史「十五世紀後半の大宮司富士家」（『戦国史研究』60、2010）／小笠原春香『戦国大名武田氏の外交と戦争』（『戦国史研究叢書』17、2019）／大久保俊昭『戦国期今川氏の領域と支配』（岩田書院、2008）／同氏「大宮司富士氏と富士郡上方地方の研究 富士宮若と「小泉上坊」から」（『駒沢史学』94、2020）／木下聡「室町殿袖判口宣案について」（『古文書研究』60、2005）／黒田基樹「享徳の乱における今川氏」（『戦国史研究会編『論集戦国大名今川氏』2020）／同氏『国衆 戦国時代のもう一つの主役』（平凡社、2022）／笹本正治「武田信玄と富士信仰」（『戦国大名武田氏』、佐藤八郎先生頌寿記念論文集刊行会、1991）／柴裕之『戦国・織豊期大名徳川氏の領国支配』（岩田書院、2014）／同氏『徳川家康 境界の領主から天下人へ』（平凡社、2017）／鈴木将典「戦国期の大名司富士氏—戦国大名今川氏との関係を中心に—」（『静岡県地域史研究』11、2021）／長澤伸樹「富士大宮司市令の研究」（『年報中世史研究』41、2016）／前田利久「戦国大名武田氏の富士大宮支配」（『地方史静岡』10、1992）／丸島和洋『戦国大名武田氏の権力構造』（思文閣、2011）／同氏『戦国大名武田氏の家臣団—信玄・勝頼を支えた家臣たち—』（教育評論社、2016）／同氏『武田勝頼 試される戦国大名の器量』（平凡社、2017）



戦国時代の富士宮市 関連MAP





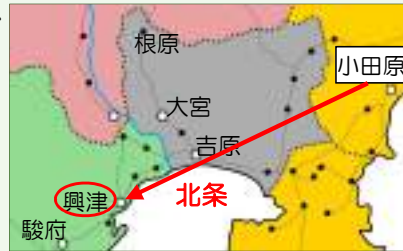
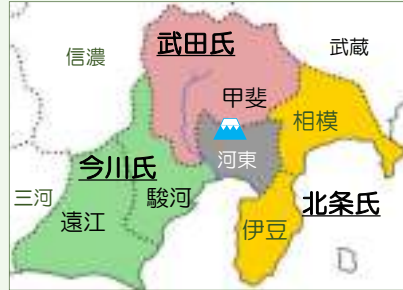
今川氏と富士宮市



「河東一乱」～今川・武田氏vs北条氏～

富士宮市の戦国時代を考える上で重要な出来事として「河東一乱」があります。これは1537（天文6）年から、「河東」の支配権を巡り、北条氏と今川・武田氏との間で起こった争いです。

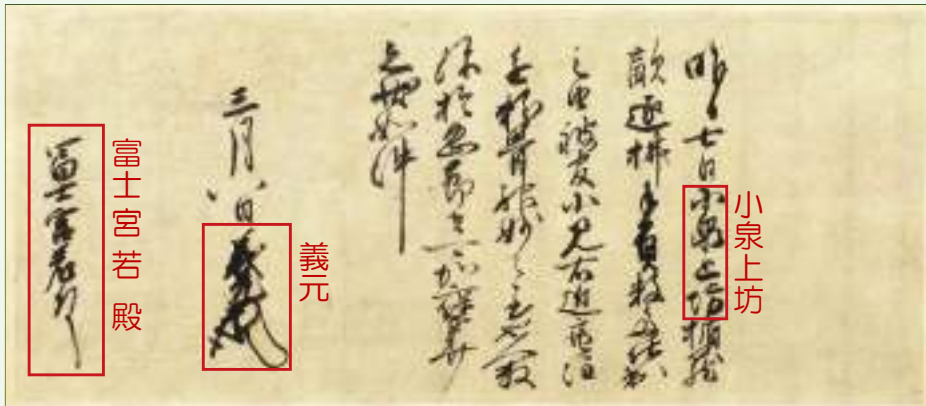
この乱の引き金は、当主になったばかりの今川義元が、領国を安定させるため、武田晴信（信玄）と同盟を結んだことにありました。北条氏はそれまで今川氏と同盟関係にありましたが、今川氏が敵国である武田氏と同盟を結んだので、今川氏との同盟が破られたと考え、興津辺りまで侵攻し、河東を占領しました。



河東一乱の経過

「河東一乱」の中の富士宮市

乱の中、富士宮市も戦場となりました。一つの事例を見ていきましょう。下記の「今川義元感状」は、義元が「富士宮若」という人物の乱における働きをほめたものです。（▶p.10「コラム：富士氏」）



（県立中央図書館所蔵、東京大学史料編纂所撮影）

もう少し詳しく宮若の働きを見ていきましょう。

宮若が「小泉上坊」（現市内小泉地内か）に「楯籠」り、多くの負傷者を出しながらも「敵」（北条方の武士）を撃退したとあります。

「小泉上坊」の詳細は不明ですが、今川方の武士が籠城して敵を撃退できるだけの軍事施設ではないかと考えられています。

このような戦いの記録が残る小泉は、河東一乱の市内における主戦場の一つと考えてよいでしょう。



行ってみたい関連スポット

小泉久遠寺



上小泉八幡宮



狩宿井出家



久遠寺：寺の僧侶が北条氏に味方した。河東一乱で大きな被害を受けている。

上小泉八幡宮：社殿西側に湧水地があり、小泉の地名の由来となったと伝わる。「小泉上坊」があった場所ではないかという説もある。

狩宿井出家：源頼朝が富士の巻狩の際に宿泊した宿舎を譲り受けたと伝わる。有力な土豪であり、今川氏に仕えて河東一乱でも活躍。



今川氏と富士宮市



「河東一乱」の終結と「河東」

河東一乱を機に今川氏は、「河東」を自分が治める地域として扱い始めます。1545（天文14）年11月に河東一乱が終わると、今川氏は「河東」で大規模な検地※を行うなどその傾向を強めていきます。

その後1554（天文23）年、今川・武田・北条の間では武田晴信（信玄）が仲介してそれぞれ婚姻関係を結び、三国同盟が成立しました。この結果、今川氏の同盟国を中心に対外的にも「河東」は今川氏が治める地域としてみなされることとなります。

※土地に課税などをするため、土地の面積や収穫高・耕作者を調べることに

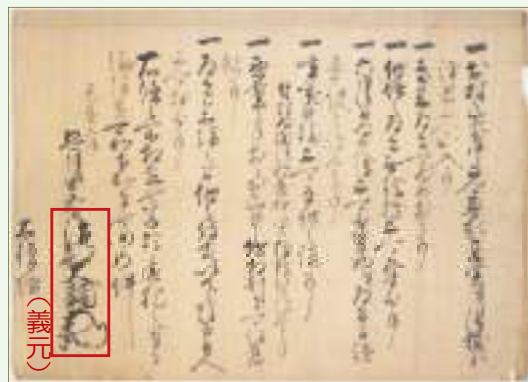
富士山登拝と義元・氏真

富士山表口登山の拠点である浅間大社・村山興法寺（現村山浅間神社）は、室町時代までには富士山へ登拝する道者の往来が盛んになり、市場や宿泊施設が成立・発展していきます。（下絵）



「絹本著色富士曼荼羅図」（浅間大社所蔵、左：浅間大社周辺、右：興法寺）

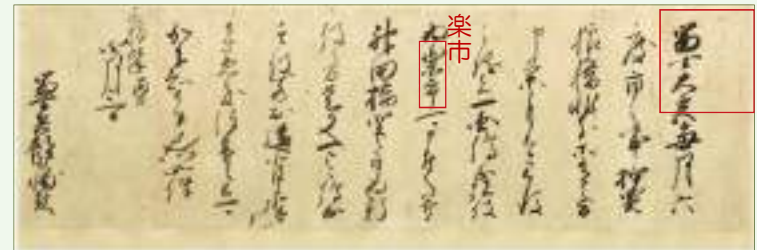
1553（天文22）年、義元は興法寺の修験者・大鏡坊に対し、右の「今川義元判物※」を発行します。これは興法寺の要望を受けて、村山という地域の清浄性、登山シーズン中の治安維持などのために作成されています。



（村山浅間神社所蔵・東京大学史料編纂所撮影）

※将軍・武将・大名などが自分のサインなどを記して出した文書

1560（永禄3）年の桶狭間の戦い後、今川家の実権は義元の子・氏真が握ります。1566（永禄9）年、氏真は浅間大社の大宮司※1・富士兵部少輔（信忠）の要望を受け、毎月六度開かれる神社の門前市場の平和保障のため、下記の「今川氏真朱印状※2」を発行しました。



（今川家の朱印）

（県立中央図書館所蔵、東京大学史料編纂所撮影）

※1 明治初期までの浅間大社の役職（▶p.10）

※2 戦国大名などの朱の印鑑を押した権利書類

行ってみたい関連スポット

神田市神社



風祭川



興法寺



神田市神社：上掲の門前市場同様この地域にも市が開かれており、この神社はその市として建てられたと伝わる。

風祭川：「風祭」は元々は風を鎮め豊作を願う浅間大社の祭礼であった。しかし義元により、河東の支配のために利用され、今川氏のための祭礼へと変化した。現在祭壇跡とされる石が残る。

興法寺：今川氏の文書が多く残る。富士山で修行する修験者の拠点でもあった。



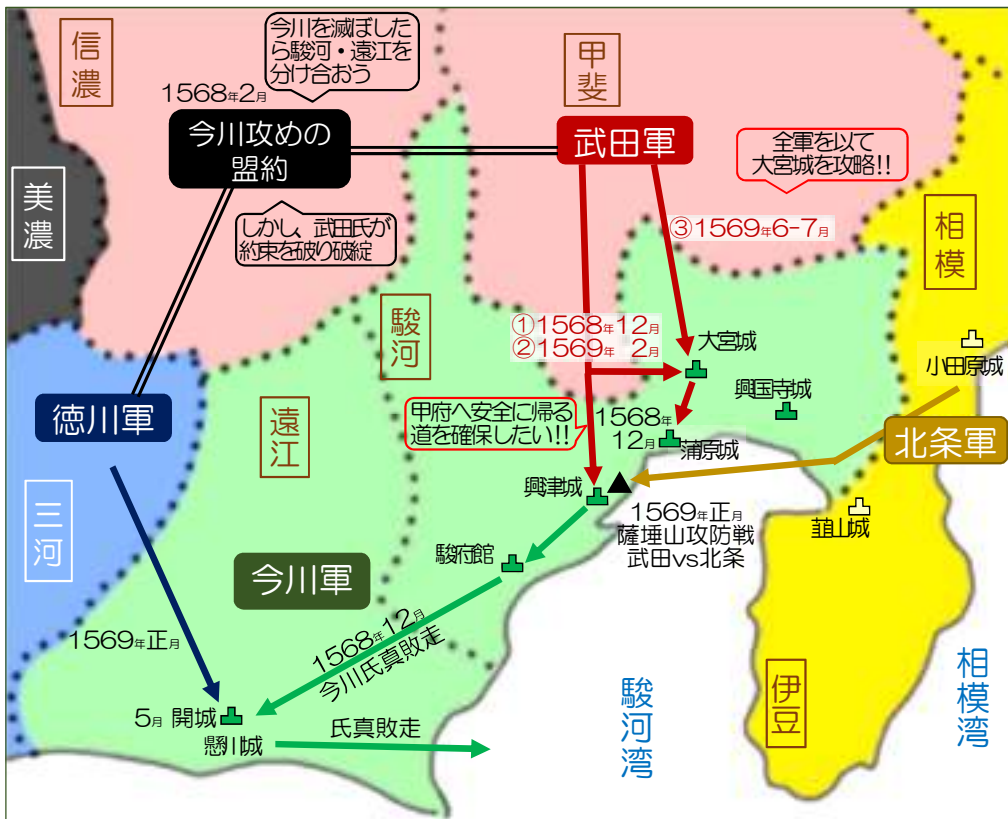
今川氏と富士宮市



武田信玄の駿河国侵攻

氏真は桶狭間の戦いにより激しく動揺する領国の立て直しを図ります。その一環として、浅間大社東側にあった大宮司の居館に「城代」を置き、複数の堀・土塁を作って守りを固めました。後にこの場所は「富士城」「大宮城」と呼ばれるようになります。(▶p.13-14)

しかし領国の動揺は収まらず、領国の西側にある遠江国(静岡県西部)や三河国などで離反者が続出します。家康も今川氏を裏切り、戦国大名として世に躍り出ました。そのような中でさらに1568(永禄11)年12月、信玄が駿河国侵攻を開始しました。



武田氏の駿河国侵攻と大宮城落城
(黒田基樹著『図説 戦国北条氏と合戦』(戎光祥出版、2018)を基に作成)

大宮城の戦い

甲斐国から駿府・江尻を往復する主要道路として、駿州往還と中道往還があります。2つは大宮付近で接近するため、大宮城の攻略は武田氏の軍事的な重要課題でした。

迫る武田氏に対し今川方の武士は大宮城に立て籠って抵抗、左地図①②の攻撃では武田軍を退けました。しかし信玄自ら指揮した③の攻撃により降伏・開城しました。



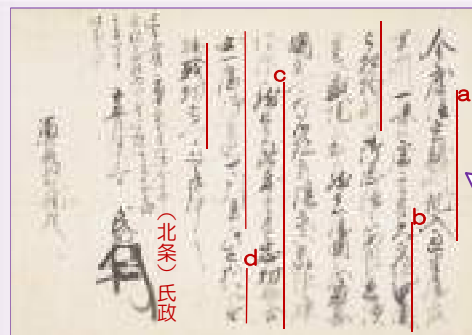
氏真でてこい

行ってみたい関連スポット

神田蔵屋敷稲荷神社



大宮城にあった蔵屋敷に祀られていた稲荷神社だと伝わる。



コラム：富士氏

富士氏は代々浅間大社の神職「大宮司」を勤め、また南北朝～戦国時代には武士としても活躍し、富士宮市周辺を治めた一族です。

大宮城の戦いにおいては、主君・氏真を保護する北条氏から戦功を賞されました。(左下写真)

大宮城開城後、身柄は一旦北条氏に預けられますが、その後武士として信玄・勝頼に仕えました。しかし、勝頼により武装解除され、以降神職を専門としました。

「北条氏政書状」(県立中央図書館所蔵)
a「信玄駿州乱入」の際、信忠はb「大宮地堅固」に守ったため、その忠節を賞して、「進退引立」をすると約束。またd更なる戦功を期待するとしている。

※時期的には左地図②のあと

(東京大学史料編纂所撮影)

武田氏と富士宮市

武田氏の富士郡支配

大宮を手に入れた信玄は、側近の一人である原昌胤を「郡司※」に任命し、大宮城を拠点に富士郡の一部の支配を担当させました。原は大宮城攻略の翌年、早速城の改修を行い、軍事拠点として強化を図りました。(▶p,14)

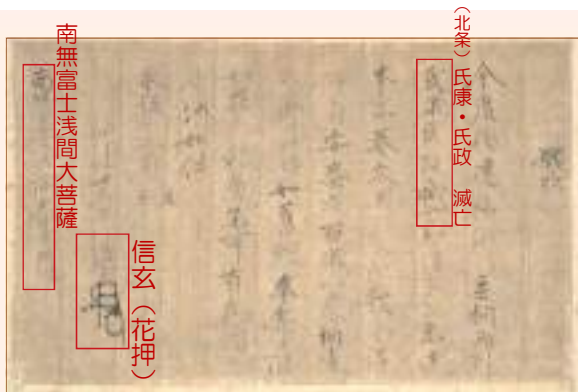
※ 軍事・行政長官



信玄と浅間大社

大宮城攻略の翌年、信玄は北条氏の城を攻略するため、駿河国に侵攻しました。信玄はこの時、浅間大社に右の「武田信玄願文※」(浅間大社所蔵)を捧げ、北条氏の滅亡を祈りました。

※神仏に捧げる願いを入れた文章



(山梨県立博物館画像提供)

1571(元龜2)年末、武田氏と北条氏との同盟が復活しました。これにより武田氏は、本格的に駿河国を領地として経営し始めました。浅間大社周辺についても、軍事的な拠点から宗教的な拠点へと政策が切り替えられました。

信玄は、浅間大社の立て直しをしました。具体的には戦乱の中で継承者がいなくなってしまう神職をきちんと継承させたり、領地を整理したりします。また、家臣の息子を神職として送り込むことで、内部から浅間大社を手に入れようとしようしました。

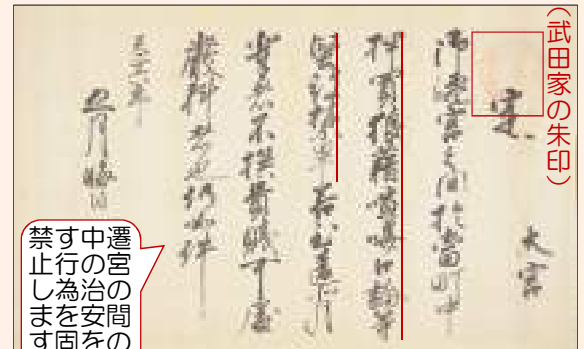


勝頼と浅間大社

1573(元龜4)年、信玄は死去します。信玄の跡を継いだ勝頼もまた浅間大社の立て直しに取り組みました。その一つが浅間大社の造営・遷宮※です。

造営は1576(天正4)年に開始され、1578(天正6)年に完成し、12月に遷宮が行われました。この間武田氏は、浅間大社の年間祭礼や資金源などについて細かく整理させています。

※ 造営などのために移動させた神様を、新しい建物に移すこと



禁す中遷止行の宮し為治のまを安間す固をのく乱町

「武田家朱印状」

(県立中央図書館所蔵、東京大学史料編纂所撮影)

行ってみたい関連スポット

勝之橋



『駿河記』によると、信玄が駿河国侵攻の時に、この橋のところで和歌を詠んだとある。

山本勘助生誕地の碑 吉野本家



吉野本家▲

▼生誕地の碑



山本勘助は武田信玄に仕えた「軍師」で、山本の吉野家に生まれた人であると伝わる。

吉野家は南北朝時代に当地に居住したといわれる旧家で、勘助はここに生まれ、幼名を源助といった。諸国を巡遊して三州牛窪(豊川市)大林家の養子となり、山本勘助と称したといわれている。



特集：大宮城（富士城）



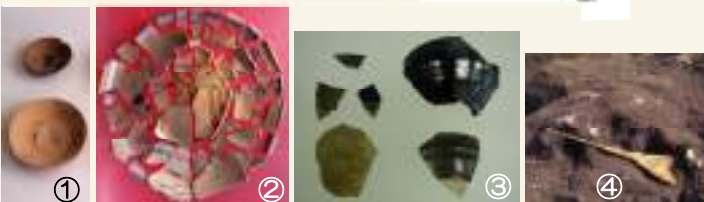
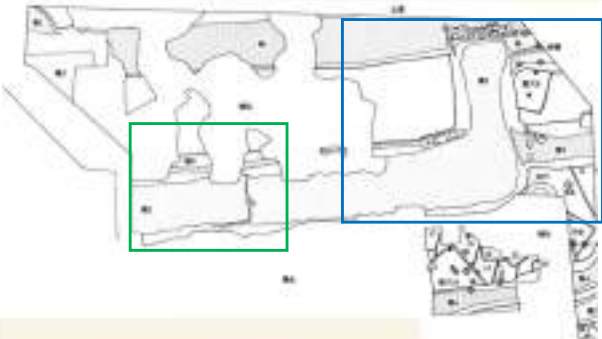
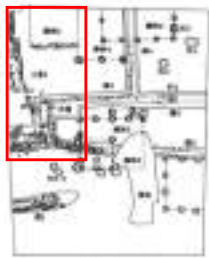
大宮城ってどんな城？

大宮城は浅間大社の東側、現大宮保育園・小学校周辺にあった城館です。もとは大宮司（▶p.10）の館であったようですが、戦国時代に今川・武田氏により修築され、城として形を整えました。

市では、昭和59年から5回発掘調査を行っており（右図赤囲い）、ここではその内容を一部紹介します。

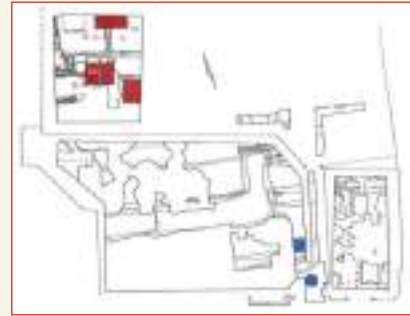


発掘調査で見つかったもの



①かわらけ／儀式や饗応に使用 ②輸入陶磁器 ③天目茶碗／使用者の地位・文化性がわかる ④雁股鍬／戦国時代末期の武器

発掘調査から分かる変遷



第Ⅰ期：12世紀前半～13世紀前半

計画的に建てられた3棟の掘立柱建物（地面を掘って柱を埋める構造、図赤色）を、小規模な溝（図青色）が囲んでいる。この頃、浅間大社においても遺物・遺構が現れる。



第Ⅱ期：13世紀前半～16世紀前半

「富士大宮司館」「館」と呼ばれる。堀（図青色下側）と土塁（図水色）で囲まれた四角形の居館（方形居館）が完成する。区画内には石組みによる溝（図青色上側）もあり、計画的に建設されている。



第Ⅲ期：16世紀中頃

「大宮城」と呼ばれる。今川氏真が周辺との政治的な緊張関係の高まりから、城を改修している。

第Ⅱ期の土塁・水堀の外に、新たに大小の堀（図青色）が築かれており、城の守りが強化されている。



第Ⅳ期：16世紀後半頃

「大宮城」と呼ばれる。武田氏による大規模な城の改修がなされる。

土間を付属した礎石建物（図赤色）と区画溝（図青色上側）を、下側に突き出る形の大型の堀と小規模な堀（図青色下側）が巡る。



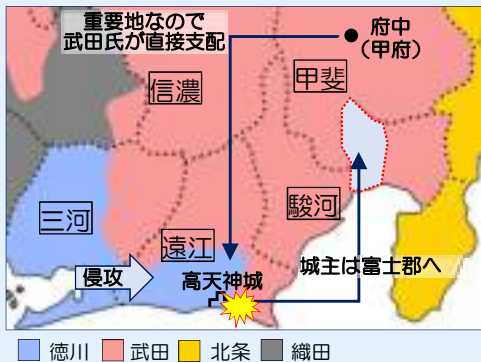
徳川氏と富士宮市



武田・徳川両氏の攻防と富士宮市

1572（元龜3）年、信玄は三方ヶ原合戦で家康を破り、遠江国・三河国へ勢力を拡大します。信玄の死後、後継者となった勝頼もまた徳川領国に攻めてきます。ここで重要になった場所の一つが、高天神城（掛川市）でした。この城の城主は家康に味方する小笠原氏でしたが、勝頼に攻め落とされ武田氏に味方をするようになりました。

しかし1575（天正3）年、長篠の戦いを機に家康が攻勢に転じました。遠江平定に取り掛かった家康に対抗するため、勝頼は最前線と



なった高天神城の防衛強化を図りました。勝頼は城主・小笠原氏を富士郡へ住ませ、柚野※（富士宮市）等を与えました。（左図）

しかし結局1581（天正9）年、家康により高天神城は落城、武田氏は勢力を大きく後退させました。

※一説には重須も与えたと伝わる

甲州征伐と富士宮市

1582（天正10）年2月、織田信長は家康、北条氏と協力して武田領へ侵攻しました。家康は駿州往還を、北条氏は中道往還を使って甲斐国へ軍を進めました。

武田氏の劣勢を受け、武田方の武士たちは、武田氏を離れ、織田氏に味方を始めました。戦国大名武田氏は味方の武士たちの裏切りと織田氏らの攻撃に耐えきれず、3月には滅亡してしまいました。



信長の富士遊覧

武田氏を滅ぼした信長は、中道往還・東海道を通り、帰路につきます。駿河国を与えられた家康は、接待役を勤めました。

『信長公記』によれば、4月12日、富士宮市を訪れた信長は人穴で茶会を開いたり、富士の巻狩りの関係地や白糸の滝を見学しました。その後、信長は家康が浅間大社内に作った豪華な仮御所に入りました。



富士見石

信長が富士山を見るときに、座った石だと伝わる。



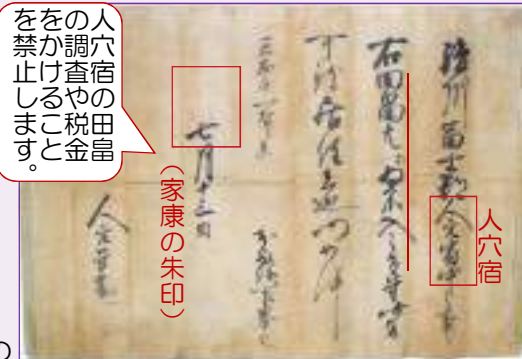
コラム：人穴と徳川家康

長谷川角行は、戦国時代に人穴で修行をしたとされる人物です。江戸時代中期には、関東地方で流行していた富士講※の開祖とされました。

角行の伝記には家康とのかかわりも書かれています。

これによれば、家康が甲州侵攻に失敗し、武田軍から敗走する途中で洞穴人穴を発見し、そこで角行と出会ったとされます。

角行に匿われて一命を救われた家康は、何かお礼をしようとします。しかし角行は修行中と受け取らないため、代わりに人穴村に賦課された様々な役を免除したとあります。真偽はともかく面白い伝承です。



※富士登山によって家族の安全や幸せを祈る組織

徳川家康朱印状（個人蔵）



徳川氏と富士宮市



天正壬午の乱と富士宮市

1582（天正10）年6月に織田信長が本能寺の変で討たれ、さらに甲斐国を治めていた織田氏の家臣が殺害されます。

これにより旧武田領（主に甲斐国・信濃国）をめぐり、徳川氏と北条氏の間で、争いが起こりました（天正壬午の乱）。



家康の五ヶ国支配と富士宮市

10月、この争いを制した家康は、三河国・遠江国・駿河国に加えて、甲斐国・信濃国を領国とし、5か国を領する大名となり、以後1590（天正18）年までこれらを治めます。

家康は、富士宮市がある富士郡の支配や防衛・治安維持を、駿東郡の城に居る家臣に担当させました。下の史料からは、富士郡の支配の様子が分かります。



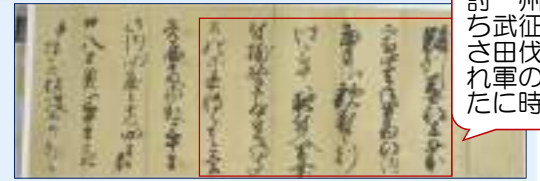
徳川家康の五ヶ国支配



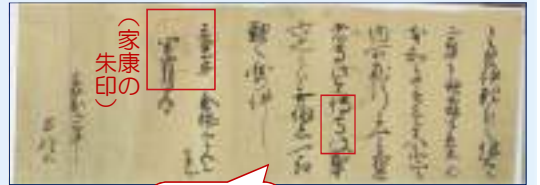
「徳川家康朱印状写」（富士山かぐや姫ミュージアム所蔵）

家康は、土地の広さと耕作者等を調べる検地や、農業振興として、本門寺（北山）用水を開削させたりしました。

また右の「徳川家康朱印状」（上井出区有文書）にあるように、駿河・甲斐両国を結ぶ「中道往還」の公用の連絡制度（伝馬制度）を再整備して連絡網を整備したり、浅間大社などの寺社の復興・保護、諸商売の振興をしたりしました。



甲州、武田征伐の際に討ち取られた陣に夜に討ち取られた陣に



（家康の朱印）

伝馬役
をのさ伝上
免役せ馬井
除のるを出
す負が負宿
担他担に

※本来は一枚の書状

行ってみたい関連スポット

本門寺（北山）用水・北山本門寺



▲北山用水絵図



◀取水口

▼北山本門寺



本門寺（北山）用水は芝川を水源とし、江戸時代には万野原まで潤した、長大な用水。1582（天正10）年に開削され、その経緯について次のように伝わる。

甲州征伐の際に当時の貴主・日出が本尊の曼荼羅（鉄砲曼荼羅）を家康に貸与したところ、その加護で鉄砲の難を避けられた。このお礼に何が欲しいか聞いたところ、日出が水不足解消のための用水開削を願ったため、家康は家臣に命じてこの用水を開かせた。



徳川氏と富士宮市



駿河国へ帰ってきた家康

家康は、関ヶ原の戦いの勝利（1600（慶長5）年）と**征夷大將軍**就任（1603年）を経て天下統一・江戸幕府成立を成し遂げました。

その後1605（慶長10）年、家康は、息子・秀忠に征夷大將軍職を譲ります。しかし自分は「大御所」として君臨し、幕府政治の実権を握り続けます。その時本拠地としたのが、当時徳川領国の中間地にあった**駿河国駿府**（静岡市）でした。

1607（慶長12）年に駿府城の改築を終えた家康は、17年ぶりに駿河国に帰ってきました。



関ヶ原の戦い直後の徳川領国
（柴裕之『徳川家康』平凡社、2017より作成）

「天下人」家康と富士宮市

「天下人」家康は富士宮市にどんなことをしたのでしょうか。関ヶ原の戦い後再び徳川領国となった駿河国の支配は、まず地方支配に精通した井出止次ら有力代官により行われていました。

しかし家康が駿府に入ると、家康は井出らを駿府町奉行に任命しました。そして1609（慶長14）年、家康は幕府領となった土地の面積などを調べるため、検地を行いました。この時の検地について市内では、上井出・源道寺・狩宿や村山浅間神社・浅間大社の領地などの記録が残っています。



「慶長十四年酉八月当山内検地水帳写」
（村山浅間神社所蔵、東京大学史料編纂所撮影）

家康の浅間大社の造営

1604（慶長9）年、家康は関ヶ原の戦いでの勝利を記念して、天正10年から仮殿のままであった社殿の造営を行いました。建物は2年後に完成、**正遷宮**※が行われました。

浅間大社の本殿はそれまで一階建て構造でしたが、この時、現在のように二重の楼閣造（浅間造）になったと言われています。本殿は現在、重要文化財に指定されています。

※ 造営などのために移動させた神様を、新しい建物に移すこと



江戸時代の境内の様子
「浅間大社境内地絵図」（浅間大社所蔵）

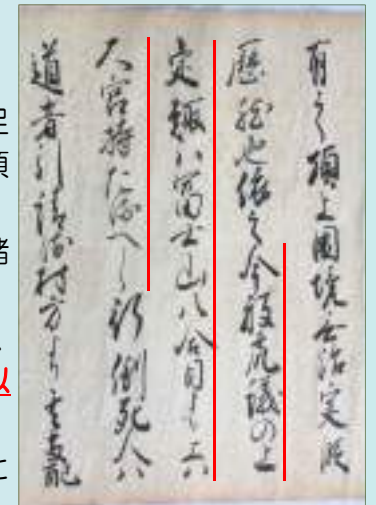
コラム：富士山はだれのもの？～家康と富士山～

現在、富士山八合目以上は浅間大社の所有となっています。そうなったことには**家康**が深く関わると伝わります。

江戸時代の1609（慶長14）年、浅間大社は**家康**から山頂部の「散銭」（費銭）を、**修理費用として寄進された**とされ、これを足掛かりにした浅間大社は、境内地として山頂部の支配・管理権を強めました。

これに対し、他の登山口もそれぞれの由緒から、富士山における権利を主張しました。その結果、訴訟となり1779（安永8）年、幕府の判決文に基づき、浅間大社に**八合目以上の支配権**が認められました。（右写真）

明治以降、八合目以上はいったん国有地となりましたが、1974（昭和49）年の最高裁判決により、浅間大社に返還されました。



「幕府裁許状写」
（浅間大社所蔵）



関連年表



西暦	政治	富士宮市周辺の出来事
1537年	2月 甲駿同盟成立 北条氏綱、駿相同盟破綻と判断。第一次河東一乱発生。 氏綱、河東占拠 ※以降義元、河東の領国化に乗り出す。 ・乱中の忠節に対する既得権利の保証や権利書紛失に伴う再保証などを通して在地を掌握する ・浅間大社の組織・神事を今川氏の権力下に取り込む など	2月 北条氏綱、大石寺に禁制を出す 3月 今川義元、小泉の砦における富士宮若の戦功を賞する 5月 義元、宮若に田中・羽鮒を給与
1542年	12月 三河岡崎にて 竹千代（徳川家康）誕生	9月 義元、村山の太内按察使房に、伊豆国へ通る山伏を、駿河・遠江の山伏が監視するよう命じる
1545年	7月 第二次河東一乱発生（～11月）	
1546年	この年ならびに1550年、義元、富士郡で検地を実施。	
1547年	9月 竹千代、織田氏の人質になる	
1549年	11月 竹千代、今川氏従属下の松平家当主として駿府へ	
1555年	3月 竹千代、元服し「元信」に	
1560年	5月 桶狭間の戦い	5月 氏真、富士登山期間中の村山の宛書を定める
1561年		7月 氏真、富士信忠を城代にする 8月 氏真、北山等の村人に大宮城修築を命じる
1563年	3月 元信「家康」に改名	
1566年	3月 家康、三河国を平定する 12月 家康、「徳川」に改姓する	3月 氏真、富士信忠に浅間大社の定書を与える 4月 氏真、浅間大社の門前市場の安全を保障
1568年	12月 信玄、駿河国侵攻開始。氏真を懸川へ追い出し駿府を占拠 家康、遠江国侵攻	12月 武田軍分隊、大宮城を攻撃①。 富士信忠、耐える
1569年	5月 家康、氏真が籠もる遠江懸川城を開城させる（駿河今川氏滅亡） 11月 信玄、3度目の駿河国侵攻大宮城に本陣を置く	2月 武田軍分隊、再び大宮城を攻撃②。富士信忠、耐える。大宮城辺り緊閉状態にある中、北条氏康、信忠に敵情を探らせる 3月 北条氏政、上野筋での井出氏の戦功を賞する 三條西実隆、武田氏の戦勝祈願のため、浅間大社に和歌を奉納する 6月 武田軍、全軍を挙げて大宮城を攻撃③ 7月 大宮城開城後、富士信忠の身柄は北条氏へ
1570年	正月 信玄、4度目の駿河国侵攻 4月 信玄、5度目の駿河国侵攻	4月 信玄、浅間大社に北条氏の滅亡を祈る 5月 信玄、郡代・原昌胤に大宮城の修築をさせる
1571年	年末 甲駿同盟復活 駿河国が武田領国に	10月 富士信忠、今川氏の家臣から離れる

西暦	政治	富士宮市周辺の出来事
1572年	10月 信玄、遠江国侵攻 12月 三方ヶ原の戦い	4月 富士信忠親子、甲府に参上、信玄に臣従する 5月 信玄、浅間大社の神職らの再編をする 富士信忠親子の処遇が決定する
1573年	4月 信玄、死去 7月 室町幕府滅亡	
1575年	5月 長篠の戦い	5月以降、武田氏、高天神城主小笠原氏に対し、城を明け渡す代わりに富士郡を宛行つ
1576年		11月 勝頼による浅間大社の造営終了
1578年		5月 勝頼、浅間大社の社法を下す 12月 勝頼、浅間大社の遷宮を行う
1582年	3月 甲州征伐（甲斐武田氏滅亡）、旧武田領国の分割により駿河国が徳川領国に 4月 織田信長の富士遊覧、家康が富士宮を含め領国内各所で信長を接待する 6月 本能寺の変、家康の「伊賀越え」 7月 天正壬午の乱（～10月）、甲斐・信濃両国が徳川領国に（家康の五ヶ国支配）	8月 家康、井出正次に本門寺用水を開削させる
1583年	2月 家康、富士郡・駿東郡の支配を松平忠次に命じる また防衛・治安維持を、松平清宗・牧野康成に命じる	1月 家康、上井出宿へ伝馬関係の文書を発給する 7月 家康、人穴宿を不入の地とする 11月 家康、井出正次に大宮の支酒席について指示する
1586年	12月 家康、駿府城へ移る	8月 羽柴秀吉、大仏殿造立のため富士山から切り出した材木の搬入につき、指示を与える
1589年	7月 「七カ条定書」配布開始	11月 市内に「七カ条定書」が配布されている
1590年	3月 小田原合戦（～7月） 7月 家康、関東移封 7月末 豊臣政権、天下統一	
1598年	8月 秀吉、死去。家康、五大老に加わる	
1600年	9月 関ヶ原の戦い、駿河国が再び徳川領国となる	
1603年	2月 家康、征夷大将軍になる（江戸幕府開幕）	
1604年	この年、家康は浅間大社を造営したとされる（1606年、遷宮）	
1605年	4月 家康、嫡男秀忠に征夷大将軍を継がせる、家康「大御所」になる	
1607年	7月 家康、駿府城に入る この年、家康、角倉与一・光好（了以）に富士川の舟運（岩淵～甲府）を開かせる	
1609年	家康、新たに幕府領となった土地の検地を行う。この年、富士山山頂部の「散銭」（賽銭）を修理費用として浅間大社へ寄進したとされる	
1614年	7月 山城方広寺鐘銘事件発生 11月 大坂冬の陣（～12月）	
1615年	5月 大坂夏の陣（羽柴（豊臣）氏滅亡） 7月 武家諸法度等の制定	
1616年	4月 家康、駿府城で死去。久能山に埋葬される	

※冊子内で紹介した内容については、赤字とした